

重大な事故防止に向けた安全対策

【 28 ホッケー 】

1 競技特性

55m×91.4mのフィールドで11人对11人のゴール型競技である。スティックでボールを操作し、試合時間は前半35分、後半35分の70分で実施する。最大の特徴はゴール前方に14.63mのシューティングサークルが有り、そのエリア内で攻撃側がシュートしたボールがゴールに入れば得点となる。また、そのシューティングサークルで守備側が反則すると攻撃側にペナルティーコーナー(PC)が与えられる。そのため、そのエリア内での激しい攻防によるスティックの打撲骨折や接触プレーによる転倒、捻挫、擦過傷など、またシューティングエリア内にセンターリングされるボールスピードが速いため(約150km)ボールによる打撲、骨折、切創などの負傷者がでる場合がある。また、スティックの長さは約100cm、重さ約700gのカーボン素材でボールは周囲が22.4cm、重さが156gのゴルフボールを拡大した物(大きさは野球の硬式ボール)である。そのためスティックもボールも堅く重くヒットされたボールスピードは脅威である。スティックをスイングした時やヒットされたボールによる打撲骨折や歯牙損傷等が多い。また、接触プレーも激しく転倒による捻挫、脳震盪、熱中症などがある。

2 想定される事故事例と予防策

(1)主として施設・設備・用具が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴールが倒れる ・ 防球ネット倒壊 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 骨折・打撲・裂傷 ・ 骨折・打撲・裂傷 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴール下部を重くする ・ ネット下部を重くする ・ 固定する ・ ネットから離れる
<ul style="list-style-type: none"> ・ テントの倒壊 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 死亡・骨折・打撲 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下部を重くする ・ 固定する ・ テントから離れる
<ul style="list-style-type: none"> ・ 散水銃が外れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 骨折・打撲 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動散水にする ・ 散水銃から離れる
<ul style="list-style-type: none"> ・ 放水時の水圧による打撲 ・ ピッチの水分不足によるやけど、擦過傷 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 打撲 ・ 擦過傷 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 散水銃から離れる ・ 散水を十分に行う ・ 回数を増やす
<ul style="list-style-type: none"> ・ クレーグラウンドの小石、凸凹による転倒捻挫 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 捻挫 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グラウンド整備 ・ 点検を十分に行う
<ul style="list-style-type: none"> ・ スティックの摩耗による破損 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 裂傷・擦過傷 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動前後に点検する
<ul style="list-style-type: none"> ・ スイング時にスティックが離れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 打撲 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グリップの点検補修
<ul style="list-style-type: none"> ・ ボールがすねに当たり打撲する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 打撲 	<ul style="list-style-type: none"> ・ レッグガードの装着
<ul style="list-style-type: none"> ・ スティックによる歯牙の損傷 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯の損傷 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マウスガードの装着
<ul style="list-style-type: none"> ・ スティックによる指の骨折 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 骨折 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グローブの装着
<ul style="list-style-type: none"> ・ ボールが当たり指の骨折(GK編) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 骨折 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グローブの装着
<ul style="list-style-type: none"> ・ ボールによる打撲、骨折 ・ 接触プレーによる脳震盪 ・ 暑さによる貧血、熱中症 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 骨折・打撲 ・ 脳震盪 ・ 熱中症・貧血 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動前後にキーパー防具の点検、装着 ・ ヘルメットの装着 ・ 水分の補給と冷却

(2)主として活動内容が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> ・ ボールによる打撲 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 足の骨折 ・ 顎・歯の骨折や破折 ・ 指の骨折 ・ 眼球の損傷 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロテクター(すね当て)の使用 ・ マウスガード着用 ・ グローブの装着

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> スティックによる打撲 スティックに絡まり転倒 選手同士の激突転倒 熱中症 過換気症候群 練習による PCの守備 	<ul style="list-style-type: none"> 足の骨折 顎・歯の骨折や破折 指の骨折 眼球の損傷 捻挫 骨折 脳震盪 顔面の切創 骨折 顔面の切創 顎・歯の骨折 脳震盪 腰痛 アキレス腱炎症 疲労骨折 骨折 顔面の切創 	<ul style="list-style-type: none"> プロテクター(すね当て)の使用 マウスガード着用 グローブの装着 柔軟性を高める 水分の補給と冷却・安静 水分の補給と冷却・安静 ウォーミングアップとクールダウン ウォーミングアップとクールダウン ウォーミングアップとクールダウン プロテクター・グローブの装着 ヘルメットの装着

(3) 主として環境条件等が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> 落雷 突風 豪雨 高温多湿による熱中症 寒冷 Jアラート発令時の対応 	<ul style="list-style-type: none"> 死亡・心停止・呼吸停止 死亡・打撲・裂傷 裂傷 熱中症 低体温症 	<ul style="list-style-type: none"> 速やかな避難 探知機の使用 速やかな避難 速やかな避難 高気温(猛暑日35℃以上)の場合は活動中止・湿度の測定 気温を測定し低気温の場合は活動中止(真冬日) 発令時の対応や様々な場面での避難方法について確認し、事前に参加者等に周知しておく。また情報収集の手段や、関係者および保護者等との連絡方法について準備しておく。

参考文献

ホッケー教本
 ホッケー競技規則

安全確認チェックリスト

【 28 ホッケー 】

競技会名	
期 日	平成 年 月 日 ()
会 場	
記載者名	

区分	確認項目	✓
施設 ・ 設備 ・ 用具	ゴールが破損していないか	
	防球ネットが破損していないか、固定されているか	
	散水栓が破損していないか	
	散水時の安全確認	
	AED設置の確認	
	救急車両の進入経路等に異常がないか	
	クレーグラウンドの場合、凸凹がないか	
活動 内 容	選手の体調確認(睡眠・食事・体温・体重)	
	マウスガード着用	
	プロテクター(すね当て)着用	
	PC時のマスク、グローブを持参しているか	
	各チーム、救急用具を持参しているか	
	給水タイムの確保	
	休憩タイムの確保	
	スティック・防具の点検	
	選手用グローブの装着	
	ドクターバックを持参しているか	
	クーラーボックスを持参しているか	
	飲料水が準備されているか	
	昼食が保冷されているか	
着替えが準備されているか		
環 境 条 件 等	気温・湿度の測定	
	天気予報の確認(雷・豪雨・突風・降雪)	
	Jアラートの対応	
発 令 時 ラ 対 応	主催者や指導者がJアラート発令時の対応を確認し、参加者等に周知しているか。	
	顧問不在時など想定される様々な場面での避難方法を、生徒等に指導しているか。	
	情報の収集や保護者への連絡方法を確認し、名簿等を準備しているか。	

反省・報告(事故、ヒヤリ・ハット含む)